第１回　日沿道新潟県境区間ＩＣ周辺土地利用基本計画策定検討委員会

会議録

○日　　時 平成２６年１０月２日（木）午後２時００分～午後３時４５分

○会　　場 鶴岡市温海庁舎　６階　大会議室

○出席委員 伊藤彦市委員長、折田仁典副委員長、遠田茂昌委員、佐藤丈典委員、佐藤佐次右衛門委員、鈴木伸之助委員、佐藤美代子委員、佐藤直司委員、加藤淳一委員、高橋広司委員、武田研二委員

○ｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ 畑山秀一氏（石井宏幸氏代理）、佐々木泰次氏

○市側出席者 建設部長、温海庁舎支所長、建設部参事、都市計画課長、農山漁村振興課長、観光物産課主幹、温海庁舎総務企画課長、温海庁舎産業課長、温海庁舎産業課主幹、温海建設事務室長、都市計画課長補佐、都市計画課専門員、都市計画課専門員、温海建設事務室長補佐、温海建設事務室主任、温海建設事務室主任

○公開非公開 公開

○傍聴者 １名

○次　第

　１．開　会

　２．あいさつ

　３．委員紹介

　４．委員長及び副委員長の選出

　５．議題

　　１）検討の進め方について

　　２）基本方針・ＩＣ周辺の機能について

　　　・構想概要について

　　　・ＩＣ周辺に求められる役割・機能について

　　３）その他

　６．その他

　７．閉　会

# １．開　会

　・佐藤参事による開会宣言

# ２．あいさつ

　・五十嵐建設部長によるあいさつ

# ３．委員紹介

　・出席者名簿による委員及びアドバイザーの紹介

　・13名の委員のうち、11名の委員が出席。

# ４．委員長及び副委員長の選出

　・委員の互選により、委員長に出羽商工会南部センター長の伊藤彦市委員、副委員長に秋田工業高等専門学校　名誉教授の折田仁典委員が選出された。

# ５．議題

# １）検討の進め方について

〈事務局による資料説明〉

# ２）基本方針・ＩＣ周辺の機能

〈事務局による資料説明〉

【主な意見と質疑応答】

【委員長】

・１）検討の進め方、２）基本方針・ＩＣ周辺の機能について、質問・意見等をいた　ただきたい。

【委員】

・駐車場の台数は大体どのぐらいを予定しているか。

【事務局】

・施設の規模など決まっているものは何もない。委員会の中で、地域で活用できる活きた施設にするためにはどの程度の大きさが必要かを検討していきたい。

【委員】

・ある程度道の駅を想定した中でも、施設規模、開発に伴う土地の大きさなどを検討することとなっているが、委員会でどこまで審議するのか。

・タイムスケジュールの中にもあるように、トイレの数や整備手法をどうするかを考える必要がある。すべて行政が整備するのではなく、この構想の中では第三セクターがやることも考えられる。当然イニシャルコスト、ランニングコストも考えなければならない。

・鼠ヶ関ＩＣ、温海ＩＣの土地利用の構想がまとまっており、その中の１つの案として道の駅の手法があると考えてよいか。

【事務局】

・鼠ヶ関ＩＣ周辺に休憩施設を設けることと、そこにどのような内容の施設を整備すると地域にとって使い勝手がよく、活用できるものになるかを議論いただきたい。

・その議論により、実施設計に向けての基礎資料をとりまとめたい。

【委員】

・構想はたたき台となっているが、道の駅構想の推進を図るために検討することと理解してよいか。

【事務局】

・そのように解釈している。資料－１の１ページの下段にある項目の内容で実施設計の検討に向けてのたたき台の資料を取りまとめたいと考えている。

【委員】

・計画作りはやぶさかではない。ただし、今後のイニシャルコストやランニングコスト等の専門的な部分の内容について検討するにあたり、市民のワークショップでの話し合いの意見を踏まえ、検討委員会が規模あるいは施設のグレードなど、基本設計・実施設計に向かっての計画をとりまとめるのは難しいので、事務局での検討結果を委員会に提案し、検討していくこととしてはどうか。

【事務局】

・ワークショップで、住民の方々からこういう機能や施設があるといいというアイデアを出していただいた中から、事務局でビジネスの視点からも取捨選択して盛り込んだ計画を提案し、委員会で検討していただくこととしたい。

【委員長】

・ありったけ出てきた意見から構想や計画を作ることになると、バランスが難しい。

【事務局】

・いろいろなアイデアを全部取り入れるのは難しいと考えているが、制限をかけるつもりはない。意見に対し実現性があるかは委員の各分野の目で審議いただいたり、行政で判断したりしながら、実施設計に盛り込むものを判断していきたい。

【委員長】

・委員はそれぞれ団体から選出されている。その中で、この日沿道全線開通まで何をすべきか何をしなければならないのかを考えるべきで、それぞれの団体に持ち帰って議論すべきと感じている。

・このサービスエリアを何のために整備するのか、その魂の部分がないと無意味になる可能性がある。

・地元の産業が潤うような形でないと問題である。産業団体の中では、全線開通までに何をすべきかを話し合わないと、せっかくの整備が無になるという可能性がある。

【事務局】

・各団体に持ち帰っての検討にあたり、説明が必要であれば要請にできるだけ答えられるようにする。

・地域の方が使いやすい施設にするための整備をどうしたらよいかをみんなで考えていきたい。

【委員】

・ＩＣにヘリポートが整備されている例はあるか。それで事故があった際に助けられた事例はあるか。

【事務局】

・利用実績など資料を持ち合わせていないため具体的な回答はできないが、ヘリポートが整備されている施設はある。

【委員】

・新潟県側でも休憩施設が整備された際、お客を呼びよせるとなると、貧弱なサービス施設だと負ける恐れがある。道の駅「しゃりん」についても、駐車場の拡張計画があるようだが、それでも足りないぐらいの施設の魅力と敷地の広さを持ちあわせた方が良い。

・良い施設が出来ればいいと思っているので、周辺の動きを感じながらいろんな情報を集めてほしい。

【事務局】

・周辺の動向としては、新潟県側では、朝日まほろばインター付近と、勝木インターの周辺に道の駅をつくる検討がされていると聞いている。秋田県側では、遊佐町でパーキングタウン構想の検討を始めていると聞いている。

【委員】

・道の駅あつみが４km圏内にあることを考えると、同じような施設が重なることが想定される。そのため、鼠ヶ関のインターチェンジに何を作るかは周辺施設を勘案しながら戦略的に考える必要がある。休憩だけではなく、ここを使って何をするのかもう少し掘り下げて考える必要がある。

・機能については、例えば高速バスの停留所を整備し、一般のバス路線のバス停をつくるという考え方もある。インターチェンジに一般のバス停を作ることで人の流れを作るなど、この施設をどのように活用するかを考えてもよいのではないか。

【事務局】

・近接している道の駅しゃりんとの関係は重要な課題で、この委員会での検討課題の一つであると考えている。

・高速バスのバス停整備についても、今のところ白紙の状態である。この地域のために是非バスストップを設けてバス利用者の利便性も考慮した方が良いとなれば、それに則した施設配置を計画したいと考えている。

【委員】

・整備する施設は、サービスエリアやパーキングエリアのように高速道路と一体化か高速道路外の施設のどちらか。

【事務局】

・インターチェンジの形については、高速道路事業者では資料の形で設計等が行われているので、構想では、高速道路から降りてすぐ入れる形としている。また、国道７号からもすぐ入れるという形が良いと思っているが、高速道路から直結した施設として高速道路利用者の利便性を高めたほうが良いという意見があれば、今後検討することとなる。

【委員】

・本検討委員会の上位計画は昨年度の構想の内容とし、この経過を踏まえたら道の駅という施設にたどり着いたと理解していいのか。

・資料の中に、住民等の意見を踏まえてと書いているが、パブリックコメント等を実施し、住民の方からここに道の駅を作ることを訪ねた結果と理解してよいか。

・道の駅は全国で1,000か所を超えている。整備のやり方次第ではうまくいく施設である。一方、逆に非常に衰退していってこれから自然淘汰されるだろう道の駅があることも現実である。

・道の駅を整備するとなると、今後はどのような機能を取組むかを検討する必要がある。先のヘリポートのように、なぜヘリポートが必要かという意見が出ることとなる。

・高速道路からいったん降ろして施設を利用させるとのことだが、あつみ温泉インターの１日の交通量はどの程度か分かれば教えていただきたい。例えば１万台あれば、その２割の2,000台は下道に降ろさせることも構想として考えられる。

【事務局】

・温海地域審議会の提案内容等と絡み合わせて施設立地場所の分析等を表現しているが、特に上位計画があるわけではない。

・パブリックコメントはやっていない。今年度が構想をもとに住民等の意見を聴く段階であり、今後ワークショップを通じて住民視点での意見も取り入れていくことを考えている。

・ヘリポートの関係については、事務局も具体的な考えがまとまってはいない。これから検討していく必要がある。

・交通量については、現在あつみ温泉インターを利用している交通量は１日7,000台ぐらいである。

【委員】

・道の駅の場合は、３つの機能が必要となる。休憩機能は必須条件である。その次にプラスアルファの部分に地域性が出て来るものである。他の道の駅では、ビールやチーズを作る施設があるところもある。

そのようにここの道の駅の基本ソフトがあり、温海地域あるいは鼠ヶ関地域同様に独特なアイデンティティをプラスすることが必要である。それは、ワークショップで地域性を出すためにはどんな施設がいるかってことを聞く必要がある。

・トイレや駐車場の整備、情報発信機能や地域連携機能を作る必要の中で、とりわけ地域連携機能の内容により生き残りがかかる。

【委員】

・休憩施設を鼠ヶ関地域に整備することにすると、あつみ温泉周辺の土地利用は、ただ看板の案内みたいなものになる恐れがあるが、誘導看板の整備ができれば、地区の中でもこのような整備をしてほしいという意見を話し合う場ができると思う。

【事務局】

・鼠ヶ関で降りた人もいかにあつみ温泉に呼び込むかという情報発信も大切だと思っている。具体化の方法も検討していきたい。

【委員】

・あつみ温泉インターと鼠ヶ関インターの役割については基本的に問題無いと考えている。

・インターチェンジに隣接した道の駅となると、わざわざ降りて来させるための魅力づくりと案内が必要となるので、その辺を踏まえて整備しないと、結局通過される危惧がある。

【委員】

・休憩施設の設置は、地域にとっては大変魅力的な部分と感じており、これらを地域振興につなげることが地元の委員として一番考えることと理解している。

・整備・運営するには、地元地域の熱意とそれにかかわる人々が一番重要である。今後ワークショップで意見を取るということだが、各地域の方と計画内容も共有して、いろんなアイデアや意見が出るようなスタイルで進めることも必要である。

【委員】

・高速道路に乗るときは急いでいるときであり、道の駅を利用する場合はトイレや食事の利用ということを考えて走行している。

・観光で通る人をいかに降ろすかが重要な点となるが、わたしたち利用者からすれば時間もしくはその生理状態に応じたところで降りることが基本であり、本当に強い意志がなければ止まらない。

・いかにあつみ温泉や鼠ヶ関に降りさせるかという議論の前に周辺の道路を充実させた上で高速道路が出来ればなおいいと思う。

【委員長】

・一通り皆さん意見を出していただいたが、最も大事なのは、ソフト面でいかに地域の皆さんがそこを利用できるか、社会資本をいかに利活用するかという部分だと思う。

・アドバイザーの皆さんからアドバイスをお願いしたい。

【アドバイザー】

・道の駅は、全国1,000を超えて整備されていることから、今後は道の駅の第２ステージとして質の向上を目指す方向となる。

・今までの道路利用者に対するサービスから地域の課題解決の場という点が今後重要視されてくる。今後とも委員会で道の駅に関する情報を適切に提供させていただきたい。

【アドバイザー】

・道の駅の整備は、最初は休憩、情報提供、地域連携の３点セットであったが、今は地域の活性化に寄与しており、地域が求めているものもそこにある。みんなが利活用できる施設になって、地域の活性化につながっている。

・施設の利用者は道路利用者だけではなく、地域住民の方々や、時間帯によって高速を降りて利用する人もいると思う。様々な意見を交えて検討できればよいと思っている。

# ３）その他

【委員】

・この地域では病院だと酒田まで搬送するのか、それとも鶴岡には大きな病院があって、管轄内で搬送が終わるのか。

【事務局】

・鶴岡市では、市立荘内病院が災害拠点病院になっており、診療圏は新潟県超えた辺りまでカバーしている。重篤な患者の場合は酒田の日本海総合病院へ搬送する場合もあるが、それ以外では荘内病院へ搬送されている。

・日沿道が部分開通すれば、鼠ヶ関から40分ぐらいで荘内病院に搬送することができる。山形県もドクターヘリを利用しており、鼠ヶ関のマリンパーク、海岸地帯がヘリのランデブーポイントに設定されている。

【委員】

・秋田県の場合だと日赤病院にヘリポートがあり、秋田県内30分以内で搬送をできるような体制を取れているが、雪のために迎えに行っても着地できない問題があり、できるだけヘリポートを確保しようという風潮にある。

・休憩施設の機能にヘリポートがあがっていたが、なぜヘリポートが必要か、その理由を整理しなければいけないと思う。

・例えば山形まで搬送することが多々あり、救急車では１時間を超えて運べない地域のため、ヘリであれば、15-20分で搬送できると、非常に救急医療に役立つという説明がベストではある。

【事務局】

・荘内病院もヘリポートを備えている病院のため、そのような活用も考えている。また災害時には鼠ヶ関地域は津波の浸水域にもなっていることから、IC周辺が災害時の１つの拠点ともなる。構想の時点では、万が一の場合の拠点という意味で、ヘリポートの整備ということを考えていた。

【委員】

・秋田県の場合は救助用のヘリもある。また、防災ヘリが飛ぶこともある。そのため、ヘリポートも２種類存在し、救急搬送と災害救助と２つの用途がある。海岸で遭難された人たちを運ぶことも考えられるということでよいか。

【事務局】

・そのようなことも想定される。海自のヘリコプターが直接、患者をピックアップすれば、病院にそのまま搬送していくということは当然ありえると考えられる。

【委員】

・検討委員会は、基本計画案をまとめて策定会議に報告するという役割となっているが、そもそも計画案がまとまっているから、この後検討会で何をまとめればよいか。

・２回目の会議でまた違う資料が出てそれを検討するのか、ある程度基本方針が出されて具体的な内容を検討する方針でよいか。今後最終的にはどこを目指してこの委員会は実施していけばいいかを教えていただきたい。

【事務局】

・あつみ地域のインターチェンジ周辺は２カ所あるが休憩施設を鼠ヶ関にという考えで今後進めていきたいというのが第１回目会議である。

・２回目はこの進め方の下にも計画の目次案がありますが、このような施設の機能や規模などを検討するにあたり、これから皆さんから意見やアイデアを伺いながら使いやすい休憩施設はどのようなものかを検討する流れにしたいと思っている。

【委員】

・休憩施設という考え方は理解した。ただ、高速道路を実際走る方がわざわざ降りてまで休憩施設に行くとは、あまり考えられいのでは。

【事務局】

・１回降りて道の駅に入るのは、高速道路利用者からすると抵抗があるという考えもある。高速道路利用者が使いやすい休憩施設の機能が必要という考えも１つ検討の方向かと思っている。制度的なものも最近変わってきている。

【アドバイザー】

・制度としては、今まで高速道路の無料区間には休憩施設の設置はできなかった。今後は道の駅を無料高速の休憩施設として、本線から直接乗り入れできるタイプまたはインターチェンジ近傍の道の駅も活用できるタイプの２種類が設置できる方針になっている。そのため、本線直結の道の駅も今後出てくると思っている。

【委員】

・寒河江のサービスエリアのような構造であれば、外へも出られるので、非常に使い勝手が良い。

【アドバイザー】

・寒河江サービスエリアだとスマートＩＣがあるため一般道、高速道本線の両方から出入りできる。また、尾花沢市の道の駅も無料高速からと国道13号の両方からアクセスできる道の駅になっている。今回の構想は、それに近い立地条件ではないかと思っている。

【委員長】

・いい施設を整備するよりも、一番は利用したくなる魅力が必要である。建物じゃなくてソフト面が最も大事なのかなという感じがする。委員としてはそのような施設になるような検討を進めていく必要がある。

・ハードの部分は必ずや朽ちていき、飽きがくる。そうではなくソフト面を充実してその施設を利用したくなる施設が直接地域の活性化につながると思うので、そのような形でこれからもいろいろ協議を進めていただきたい。

・議事進行にご協力いただきありがとうございました。

終了